

政策評価シート（令和元～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	市民局
	氏名	局長 草分 裕美

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
政策の目的	【生涯学習に対する市民ニーズの高まり】 ○1年間に生涯学習を行ったと答えた市民の割合は30%にとどまり、全国平均の57%を大きく下回っています。 ○生涯学習に関する潜在的ニーズを掘り起こし、だれもがどこでも学べる環境づくりが求められています。

(1) 総合評価

評価	<b>S：政策の目的が十分に達成されている</b>
理由	成果指標である「生涯学習を行っている人の割合」は53.7%（達成率107.4%）と大幅に目標を上回り、以下のことも勘案し総合評価をSとした。 ・施策1の「大学連携事業の推進」については、成果指標「講座参加者満足度」の達成率が97.3%と目標を下回ったが、大学共催公開講座の開催数、延参加者数ともに十分な成果があり、大学等との連携による市民の多様なニーズに応える学習機会の提供ができた。 ・施策2の「人材養成塾」については、成果指標「地域や社会のために行動した人（R2修了生）」の達成率が115.6%と目標を大幅に上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響等によって受講生が定員より少なかった。 ・施策3の「生涯学習交流館の整備」については、成果指標「生涯学習施設の耐震化率」の達成率が102.7%と目標を上回り、さらに1年早く最終目標を達成するとともに、老朽化の進んだ施設の改修や建替えについても計画どおり実施できている。

※【評価基準】 S：政策の目的が十分に達成されている。A：政策の目的が達成されている。B：政策の目的があまり達成されていない。C：政策の目的が達成されていない。  
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

指標名	現状値	R4目標値	実績値 (R4.3末時点)	達成率(%) (R4.3末時点)	評価	目標値の算出根拠
生涯学習を行っている人の割合	46.1% (H30)	50%	53.7%	107.4%	<b>S</b>	スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査（4年に1度実施）の平成25年度調査結果を基に次のとおり算出した。 調査結果：「1年間に生涯学習を行った人の割合30%」、「生涯学習を行いたいと考えてる人の割合36%」 目標設定：「生涯学習を行いたいと考えてる人」に生涯学習を行ってもらいいうことを目標とする。 目標値：既に生涯学習を行っている人（30%）に加え、生涯学習を行いたいと考えている人の約6割（≒20%）が生涯学習を行うようになることを目標値とする。 30%（既に生涯学習を行っている人）+20%（新たに生涯学習を行う人）= 50%
					<b>—</b>	

※【評価基準】 s：既に目標値を達成している、a：目標値を達成する見込みである、b：目標値をやや下回る見込みである、c：目標値を大幅に下回る見込みである

(3) 第4次総合計画に向けた見直し等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡シチズンカレッジ「こ・こ・に」を中心に協働によるまちづくりを担う人材養成の充実を図り、シチズンシップに富んだ人材を継続的に養成するとともに、地域や社会で実際に活躍することができるよう修了生へのフォローアップを充実していく。</li> <li>・絶えず変化する予測困難な社会に適応していくために個人がアップデートするための学びを支援する「社会人の学び直し（リカレント教育・リスキリング）」など「人生100年時代」に必要な施策を検討をしていく。</li> <li>・オンデマンドやICT等を活用した学習形態の充実を図り、これまでの中心的な学習形態であった対面や体験等の「リアル」を組合せていくことで、より効果的で多様な学習機会の提供に取り組んでいく。</li> <li>・生涯学習施設については、最終目標より1年早く耐震化率100%を達成できたので、今後は施設の老朽化に伴う建替えや改修を計画的に進めていく。</li> </ul>
---

(4) 政策を構成する施策及び主要事業

施策1	市民ニーズに合わせた学習機会の充実		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策2	未来を創る人材の養成		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

施策3	生涯学習に親しむ環境整備		
総合評価結果	R元	R2	R3
	A	A	A

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	1 市民ニーズに合わせた学習機会の充実
----	---------------------

施策の目的	市と大学等との連携により市民の多様なニーズに応える学習機会を提供していきます。
-------	---

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	参与兼課長 宮城島 清也

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である講座参加者満足度は83.5%と目標を下回ったが、大学公開講座の共催では大学等との連携により市民の多様なニーズに応える学習機会を提供できた。以上のことから評価をAとした。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である講座参加者満足度は86.1%と目標を上回り、大学公開講座の共催では大学等との連携により市民の多様なニーズに応える学習機会を提供できた。以上のことから評価をAとした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である「講座参加者満足度」は82.7%（達成率97.3%）と目標を下回ったが、大学共催公開講座の開催数、延参加者数ともに十分な成果があり、大学等との連携による市民の多様なニーズに応える学習機会の提供を実施できたと考えられることから総合評価をAとした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	講座参加者満足度	85.5% (2015～2017)	1	85.0%	83.5%	98.2%	a	H29年度施策評価シート作成時、受講生アンケート直近3カ年の実績の平均（84%）を参考に設定 なお、講座参加者以外の「市民ニーズ」については、各生涯学習施設に設置している生涯学習施設運営委員会（地域団体、学校、利用者団体等で組織）において意見把握を行い講座事業等に反映させている。 講座参加者満足度の目標値85%は、平成27年度から平成30年度（過去4年）の満足度の推移から満足度としては上限レベルの値と判断する。
			2	85.0%	86.1%	101.2%	a	
			3	85.0%	82.7%	97.3%	a	
			4	85.0%	—	—	—	
		1						
		2						
		3						
		4						
指標以外の成果	市内大学と生涯学習施設を所管する指定管理者との連携が進み、大学と生涯学習施設との共催公開講座数については、令和2年度の開催数27回、参加者数延476人に対し、令和3年度の開催数は30回、参加者数は延べ604人となり、コロナ禍でも市民に身近な生涯学習施設において高度で専門的な学習を求める市民ニーズに対応した事業を実施できた。 また、市と市内5大学との連携事業である「市民大学リレー講座」は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で対面とオンライン配信によるハイブリッド方式で開催し、延べ259人が参加した。連携事業の実施を通じて、市と大学の生涯学習に対する取組への理解が相互に深まっている。	1						
		2						
		3						
		4						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
大学連携事業の推進	生涯学習施設等における大学との連携による高度で専門的な学習機会の提供 ①市民大学リレー講座（5回 延参加者数259人） ②生涯学習施設・大学共催公開講座（30回 延参加者数604人） ③静岡市・大学連携生涯学習会議の開催（2回）	1	1	412	0	263	0.3	0.2	0.0	○
			2	313	0	263	0.6		0.3	
			3	290	0	274	0.7		0.3	
			4	—	—	—	—	—	—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	リカレント教育（社会人の学び直し）の視点を組み込むため、現役社会人（30代～40代）が参加し易い内容、時間、場所を検討する必要がある。	仕事終わりの現役社会人（30代～40代）をターゲットに設定し、平日夜間に静岡市の街中を会場に開催する。開催日を金曜日とすることでプレ金大学とも連携した講座とし現役社会人の参加を促進させる。リカレント教育を視野に入れたテーマを設定する。
令和2年度	各大学のリカレント教育（社会人の学び直し）に関する取組が市、大学、指定管理者で共有されておらず、情報共有を行う必要がある。また、コロナ禍における実施方法について、オンラインの可能性を研究する必要がある。	大学連携会議において各大学のリカレント教育（社会人の学び直し）に関する取組について情報共有する。また、オンライン実施の可能性を大学と協議しながら研究する。
令和3年度	社会人の学び直しに関する学習機会を充実するため、今まで参加の少なかった現役層への参加を促したり、各大学のリカレント教育に関する取組について動向を把握し、市民へ情報提供を行う必要がある。	対面方式とオンライン方式のハイブリッド実施の継続や静岡市・大学連携生涯学習会議において各大学のリカレント教育の取組について動向を把握し、市民への情報提供を強化していく。
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	課長 宮城島 清也

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	2 未来を創る人材の養成
----	--------------

施策の目的	人口減少や少子高齢化の進展により、市民主体のまちづくりの重要性はより高まると同時に、地域活動の担い手が不足している状況は今後さらに深刻化することが見込まれます。そこで市民と行政との協働によるまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材の養成を行います。
-------	---

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「地域や社会のために行動した人（H30修了生）」の割合は目標を下回ったものの、地域コミュニティにおける「担い手不足」という大きな課題に対して、住民の負担を軽減するために行動を起こす修了生を輩出した。
	令和2年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	「地域や社会のために行動した人（R1修了生）」の割合は目標を上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響等によって当初の計画どおり活動に取組むことができなかった修了生もいることから、総合評価は「A」とした。
	令和3年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	成果指標である「地域や社会のために行動した人（R2修了生）の割合」は100%（達成率115.6%）と目標を大幅に上回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響等によって受講生が定員より少なかったことから総合評価をAとした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	85.5%	70.0%	81.9%	b	
地域や社会のために行動した人の割合【人材養成塾（地域リーダー養成コース）】	83.3% (2017)	2	86.0%	100.0%	116.3%	s		
		3	86.5%	100.0%	115.6%	s		
		4	87.0%	—	—	—		
		1	—	—	—	—		
		2	—	—	—	—		
		3	—	—	—	—		
		4	—	—	—	—		
		1	—	—	—	—		
		2	—	—	—	—		
		3	—	—	—	—		
		4	—	—	—	—		

令和3年度は、「地域デザインカレッジ2020」を自治会・町内会編として自治会・町内会の会長・役員等を対象に開催し、「基礎講座」では18名、「実践講座」では6人の参加があった。修了生は、「マンション住民の自治会活動への参加」をテーマに自治会全世帯にアンケートを行ったり、組長の負担軽減に向けた「組長マニュアル」を作成したりするなど、活動を実践している。「高校生まちづくりスクール（ビジネス編）」は定員15人を超える47人が受講・修了し、地域に目を向ける機会の少ない高校生の地域や社会のために行動していきたいという意識を醸成するとともに、起業にチャレンジしようとする修了生を輩出するなど効果的な講座を実施することができた。

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
人材養成塾（地域リーダー養成コース）	地域やまちづくりを担う人材を養成する講座の開催 ①静岡市人材養成塾「地域デザインカレッジ」の開催 基礎講座1回 参加者数18人 実践講座4回 修了生数6人	1	1	4,842	0	3,903	1.5		0.2	○
			2	4,956	0	1,615	1.5		0.3	
			3	4,863	0	1,818	1.5		0.3	
			4	—	—	—	—		—	
人材養成塾（高校生地域人材養成コース）	高校生の地域社会への参加を促し、これからのまちづくりの担い手として育成する講座の開催 ①高校生まちづくりスクール（ビジネス編） 講座回数5回 修了生数42人	2	1	782	0	705	0.5		0.2	○
			2	1,299	0	1,063	0.8		0.3	
			3	1,305	0	1,216	0.8		0.3	
			4	—	—	—	—		—	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	受講生（修了生）の減少（地域リーダー養成コース） ※修了生数 平成30年度：17名 ⇒ 令和元年度：14名	地域コミュニティ活動に関わる方を対象とした公開講座の開催等により、講座のターゲットとなる層に対するアプローチを強化する（地域リーダー養成コース）
令和2年度	地縁型コミュニティに係る課題に対する取組は「受講生の当該コミュニティにおける立ち位置」によって実効性に差が出る傾向がある。 令和2年度に「静岡市全自治会・町内会アンケート」を実施（所管：市民自治推進課）し、市と自治会連合会で課題を共有した。	講座対象者を自治会・町内会の関係者に絞り込むとともに、令和2年度に実施した「静岡市全自治会・町内会アンケート」から浮き彫りとなった自治会・町内会活動の課題と連動した講座内容とする。
令和3年度	地域デザインカレッジについては受講生が減少しているため、広く参加を促すとともに、両事業の修了生を具体的な活動に繋げていく必要がある。	公開講座や過去の修了生の活動状況報告会、情報交換会を行うことを通じて新たな参加者を開拓するとともに、修了生の活動後の課題解決にもつなげていく。
令和4年度	—	—

# 施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	4 文化・スポーツ
----	-----------

政策	4 生涯にわたる学びを支援しまちづくりに関わる人材の養成を推進します
----	------------------------------------

施策	3 生涯学習に親しむ環境整備
----	----------------

施策の目的	静岡市生涯学習施設の配置適正化方針に基づき、生涯学習施設がより一層充実した地域の生涯学習活動やまちづくり活動の拠点となるよう、老朽化し耐震性の劣る施設について、市民参画により地域の意見が反映された施設整備計画を策定し、市民が安全・安心・快適に利用できる施設として整備する。
-------	--

評価責任者	所属	市民局 生涯学習推進課
	氏名	課長 宮城島 清也

## （1）総合評価

総合評価	令和元年度	<b>A：施策の目的が達成されている。</b>	理由	耐震性の劣る施設について、計画通り確実に解消することができており、耐震化率も徐々に上がっている。
	令和2年度	<b>A：施策の目的が達成されている。</b>	理由	耐震性の劣る施設について、計画通り確実に解消することができており、耐震化率も徐々に上がっている。
	令和3年度	<b>S：施策の目的が十分に達成されている。</b>	理由	成果指標である「生涯学習施設の耐震化率」は100%（達成率102.7%）と目標を上回り、さらに1年早く最終目標を達成するとともに、老朽化の進んだ施設の改修や建替えについても計画どおり実施できていることから、総合評価をSとした。
	令和4年度	—	理由	—

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。  
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

## （2）成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	生涯学習施設の耐震化率	82% (2018)	1	87.1%	87.1%	100.0%	a	3次総後期計画では、市民団体等が安全・安心・快適に活動できる施設の整備を目標とし、その成果指標を耐震化率とした。 また、生涯学習推進計画（後期）の見直しにおいても、生涯学習の基盤整備（環境整備・ハード）施策に係る成果指標を耐震化率としている。
			2	89.7%	89.7%	100.0%	a	
			3	97.4%	100.0%	102.7%	a	
			4	100.0%	—	—	—	
指標以外の		1					・飯田生涯学習交流館の建替え及び折戸生涯学習交流館の耐震改修は、令和3年3月に工事が完了し、折戸生涯学習交流館は令和3年4月に、飯田生涯学習交流館は令和3年7月に供用開始した。 ・船越生涯学習交流館の建替えは、令和4年3月に設計業務が完了し、その後、同月に休館及び解体工事に着手した。 ・田代生涯学習交流館の解体工事は、令和4年2月に完了した。	
		2						
		3						
		4						

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
飯田生涯学習交流館建設事業	令和3年3月 新施設完成 令和3年6月 利用者用駐車場整備 令和3年4～6月 開館準備（備品納品・引越し等） 令和3年7月 供用開始 令和4年3月 工損調査完了	1	1	165,553	0	36,017	1.5	0.1	0.0	○
			2	245,100	128,172	350,862	1.5		0.1	
			3	15,003	0	12,261	1.6	—		
			4	—	—	—	—	—		
折戸生涯学習交流館耐震補強事業	令和3年3月 耐震補強完了 令和3年4月 供用開始	1	1	15,323	0	12,980	0.7	0.0	0.0	○
			2	257,900	0	201,704	0.7		0.0	
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
船越生涯学習交流館建設事業	令和4年3月 基本・実施設計業務完了 令和4年3月 仮設事務所設置完了 令和4年3月 休館 令和4年3月 交流館解体工事着手	1	1	3,000	0	2,722	0.7	0.0	0.0	○
			2	45,400	0	5,009	0.7		0.0	
			3	13,339	34,540	30,289	1.0	—		
			4	—	—	—	—	—		
高部生涯学習交流館建設事業	令和3年 5月 大内新田土地利活用地元説明会 令和3年12月 暫定的耐震改修完了 令和4年 2月 大内新田土地利活用地元説明会	1	1	—	—	—	—	—	—	○
			2	0	0	0	1.0		0.0	
			3	0	0	0	0.5	—		
			4	—	—	—	—	—		
辻生涯学習交流館耐震補強事業	令和2年3月 耐震補強完了 令和2年4月 供用開始	1	1	208,500	0	203,314	0.8	0.0	0.0	○
			2	—	—	—	—	—		
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	高部生涯学習交流館については、移転計画を所管している企画課にて計画が未確定のため、令和4年度までの目標達成が不明確	令和4年度までに、耐震ランクを上げるための「簡易補強工事」にかかる、可能性調査委託等による対応を検討予定
令和2年度	高部生涯学習交流館については、移転計画を含めた土地利用計画を所管している企画課による委託業務が進行中であった。令和2年12月に該当敷地の計画が進展し、当交流館の移転新築についても当計画に組み込む形で市及び地元へ合意形成を図っている	現時点においては、新交流館の設計作業は令和4年度以降となっているが、建替え実現までの間、既存交流館が安心して施設利用できるように、暫定的な耐震対策を行い耐震性能の向上を図ることにより、令和4年度が期限の目標も達成される見込み
令和3年度	高部生涯学習交流館は、暫定的耐震改修により耐震ランクがⅢからⅠb相当まで向上したが、建替を前提とした暫定措置のため、早期に建替えを実施する必要がある。	大内新田の土地利用事業を所管する企画課や関係課と連携し、早期に建替えを実施する。
令和4年度	—	—